

時事新報

時事新報

第二千二百六十號
明治廿二年四月十五日 月曜日
舊曆己丑三月十六日 (辛酉)
日出版六時十分
月入洋銀六元
半年洋銀三十二元
全年洋銀六十四元
廣告費別議
(西曆一千八百八十九年)

觀花

「見わたせば柳をくらくらとまきまきせて都を春の錦ありける」今や清都の春色、錦を織成して東西南北宮城禁園のあたりより田舎野人の家に至るまで花柳の綺羅を張らざるは亦く殊に昨日は天氣も麗らかとして空吹く風も穏かなれば百萬の都人は貴賤を論せず貧富を問はず遊春弄花の興に忙はしく東台の山上、翠陀の堤邊、到る處に扇影衣香の雜沓を見るもどならん之れは東京府下のみに就きての觀なれども時に多少の遷移ありあれば今は全國何處も花の季節として惠風を誘ふて満山白を呈すれば處處の名所遊園女子の相嬉遊する情態は坐して思ひ見る可し抑も人間の浮世も在るや其命運は種々様々として陰徳必ずしも陽徳なく不義にして富み且つ貴きものもあれば正直にして貧、且つ窮するものも多く佳人に薄命と云ひ才子に多病と云ひ細く其起伏纏綿の有様を觀察すれば今の人間社會は之を不平怨恨の淵藪と稱するも不可なきのみならず更上一層深入して其内情を探索するときは時と地位とを得て表面は至極得意らしく見ゆるものも實際の實情に立入れば亦案外の者として仲間の折合にも注意せざる可らず世間の評判にも氣付ざる可らず其心配苦勞一方ならざる猶ほ其上に家内の風波も絶えず家計の隘隘も宜しきを得ざるなど獨り自ら心を悩まして人知れぬ苦みもある可し左れば圓満なる快樂は朱門高第の邊に在らずして却て三間の茅屋中に存する事もあらんかれども其は兎も角も不平怨恨は人間社會に在る可らずして人生五十、一年三百六十五日貴となく賤となく富となく貧となく總ての不平の海底に沈溺して自ら起つとを知らざる其間も氣候は何時しか變遷して飽陽四月の節となり都鄙の春色、正に錦を織るに至れば年中鬱屈したる人心も亦いつしか春を催はして貴賤貧富男女老若かの、夫れ相慶の綺羅を着飾りて花前に群ひ花下よ歌ひ共々平生の苦痛を忘れて春の日の短きを嘲つものも正に是れ花時花時の有様にして或る外客の評に日本人は花を狂するものなりと云ひたる由なるが其言取て不當ならず日本人は花時の狂態は斯生一年の鬱屈を散らすものにして或は造化が特に日本人を私するの賜物と稱するも可ならんか兎も角も人の賜物が平等一様、人の心を融和して年中鬱屈の情を伸ぶる其効能は至大のものなりと云はざるを得ず

就て思ふに正直、勤儉、儉約は經濟上の三要素にして人生よく之を守りて怠らざるときは處世の道に不知慮の事ある可しとは學說上の道理にして如何も尤も亦る次第なれども如何せん人間世界は道理一片の世界にあらず一方に理の偏分あれば又一方には情の支配を免るゝ能はざるものにして其境界分量は孰れか廣狭、孰れか多少容易に判知す可らず豈へば猶ほ人間が精神と身體とより成立すると同様の次第にして其精神は即ち理と情とより成りて事の實際に現はれたる處より云へ

は理は三分にして情は七分を占むると云ふも可なる程のものあれば道理の上にては一點の批難なき正論も有情世界の實際には容易に行はれ難きもの多し正直以下の三徳の如き則ち其例として經濟上の道理に於ては毫も間然す可き處なしと雖も扱の實行に於れば其困難なるものにして例へば正直は人の美德たるに相違なきも之を厳正に守るときは一場の戲言も猶ほ且つ之を咎めざる可らざるに至らん今の人情世界は通用す可きや否や若し又みれば反對にして今の浮世に理屈は映す可らずとなし單に情のみを趨るもあらば其弊は詐欺、懶惰、驕奢の惡風を流れて復た救ふ可らざるに至らんのみ左れば人間社會の事は理に偏す可らず又情に流る可らず能く其節制中和を得るも肝要にして經濟上の諸徳を守るも於て偏偏加ふ失せず放縱し流れず正直にしてよく感化し、能く勉め能く遊び、常々儉約を守りて時と空を試むる等理と情との間に出入して其程を失はざるの心掛一ありと知る可し今や都鄙並に處花盛りの好時節にして人々花を狂して造化の樂みを樂む其樂みは愉快あるもさながらと雖も顧みるも平生一身の心掛は果して何れの邊に在りや年中よく正直、勤儉、儉約の諸徳を守りて怠らざるも時と春時に乘じて花下に遊戯し身分相應の豪奢を試るが如きは所謂情を養ふの法にして其義法は更に勤儉儉約の働も新鮮の生力を添ふるものなり觀花の事些末も似たれども人間處世の妙機を窺ふに足る可し

雜報

○萬屋 人間社會も必要なる總ての用を通し又品物を賣捌くも残らず一區域の構内は於て其所至れば家具も買ふべく遊具も購ふべく浴せんと欲するも梳らんと欲するも衣服飲食を欲するものも總べて自由自在として早く例を取つて云へば勤工場の如く萬屋の如き萬物を販ぐ店にして尙一層便利自由なる仕掛の商店はエニヴアーサー、アトヴァー、アトヴァーとして近年歐米諸國も追々増加する新法として此一構への店も近接する二三の貨物其他を専門に賣捌くものは爲めに壓倒されて産を減るもの多しと云へば比較上利益の多きと推して知るべし資本に餘りあるものは須く學ぶべきものあり茲に其仕組の概略を記せば三面若は二面は道路を控へたる場所に一構への家を建てる表面に幾何となく店を設け雜貨衣類等の物品より湯屋、散髪床、料理店等に至るまで夫々の店を設け客の好みに従つて用を達する事を得せしめ構へ内は總て同一として沐浴したる後シャワーを購はんと欲するものは戶外に出で直ちシャワー店に行くを得べく飲食したる後沐浴せんと欲せば亦自由なるべく其他一切此例あり又貨物店には入口に番人あり此番人は滿役の兵士を雇ひ入るゝを例とするが故に彼等は胸に勳章を輝して成る丈け人の目に觸るゝの装ひを爲し購客ある時は何品を要するかと尋ね其要品を賣捌ぐ店に案内す購客は其案内を應じて欲するものを求め代價を拂ふに勘定方と帳簿方の

居所は階下より三階に至るまでの内、店構へも不便且遠隔ある場所を撰びたるものなれば番頭は購客より品物の代金を受取りて小さく玉の如き器に受取書と代金を入れ之を空氣器械にて勘定方へ送り勘定方は代金を受取り餘剰金を要する時は之を用意する内受取書のみを前の手段にて帳簿方へ送り帳簿方より捺印して送り歸すを又受取りて餘剰金と共に番頭へ送れば番頭より客は渡すなり而して品物は假令へ僅りても遠近を撰ばず客の命する儘に先方へ届くる其時間は大概當日なれども時として翌日と着するもあり兎も角如何に遠くとも二日以上を要するもなし左れば斯く便利を主として購客を延くが故に店構を推して知るべく其繁昌も乘じて捕虜の徘徊するも珍らしうらす而して若し捕り取られたる時は其人を陰か見認めて之を呼び寄せ捕り取られる品物だけの代價書を渡し代金を要求するも拘兒若し悟として知らずと答へんと欲するも非常戒めの爲めに雇ひ置ける巡査ありて表面にさるゝ時は勿論後ら暗き身あるが故に要求通り代金を拂はざるもなしと云ふ此エニヴアーサー、アトヴァー、アトヴァーの世界一と稱すべきは英國倫敦のホワイトリ氏の店として一昨日掲載せしが如く今度米國の驛運總監となりレッチナー、メーカ、カ、フ、イ、ア、の商店は其三三位米國內にては第一等なり或る時倫敦一武人あり以爲く如何に萬屋なればとて好むの悪くあるも限るまじければ試るみに異様の注文して困らせんものとホワイトリ氏の店に赴き我隊中に用ふる所あり生れて幾歳の身の丈け若干尺なる事を要す用を達するや如何んと尋ねたり此時若し左る注文は受くる能はずと拒絶するから思ひの儘に謝らせんものと斯く殊更に六ヶ敷く注文したるもホワイトリ氏は直ち承諾して只今店も有合せれば暫時の猶豫を請ふとて期限を約束し海外より取寄する暇もなき儘に數日の期限内に注文通りものを右武人の許へ届けしめければ武人は案に相違し先方を困めんとて却つて自ら其用ひ所なきに困却し若干の金を添へ謝して送り歸したる事ありし由或る人ウナメーカ、カ、フ、イ、ア、の官途より驛運總監となりしを評して謂へらく元來機に臨み變に應ずるは政治にまれ商賈にまれ難なる所なれば立憲政體國の政治には何事にも總て憲法以下の規則あり此規則によりて事務を處理する時は格別の困難ありとも思はれず然るも商賈は聊か之と同じからず他に已れを助け已れを導くものなきのみか四面皆敵にして油断せば利を奪はれんとするの内、元立し傳か一世半世にして幾千萬の富を造るは群に秀て英才卓見の人物にあらざれば能はず而してウナメーカ、カ、フ、イ、ア、の一人あり驛運の事務を總監して其屬官を便役し其事務を處理するはフイラ、ブ、フ、イ、ア、の萬屋を創立して百千の手代番頭を便役するも甚しき徑庭なかるべし否乎は寧ろ萬屋の主人たるを難しとするものなり云々其評の是非は茲に判定の限りにあらずと云ふウナメーカ、カ、フ、イ、ア、の商賈に機敏なるは人の信じて疑はざる所ありと

○青森の電報 町村制實施の現況 自治制發布以來理事者を始め人民の勉勵によりて諸般の準備思ひの外進取りしかども去る一日には未だ議員町村長を撰挙するの運びに至らざりしは最早公民権を有する人名簿も既に整頓したるよしにして近々議員を撰挙し来る五月中旬までには町村長を撰挙するの決定なりと云ふ○國會議員候補者 東津輕、上北、下北、三戸の四郡を以て本縣

撰舉區の第 輕、南部と 以南部の方 梧樓、奈須 輕の方にて 八其他二三 徹郎氏が奈 右の外第二 といふ○銀 續を獲見し 獲見したる 家山田改一 ひたるよし 前上京した 〇氣候の不 不順の氣候 是獨り我國 湖北省宜昌 がましく書 所も近來珍 かに暖氣を 以寒氣甚だ 過問も小休 を撰めて三 くも異常な 又もや速信 中止して再 の見込なき ざる爲め海 支那は最 本紙上 邦人中 及び據國も 〇夏織物の 月下句より ある事ある が一向に出 下の問屋も 商況なれば 賣放し昨年 絲糸は殆 相場は下等 へ入り同地 て五十錢内 一圓二十五 一圓より一 内外下物は 方の調氣亦 物中等以下 廣二圓より 錢の安直な は相場も一 晴絲織の夏 し七圓五十 の羽織染地 別上海色 〇米國通信 日本駐劄の